

富士大学研究者情報

経済学部経営法学科

教授

筑後 勝彦

ちくご かつひこ

研究者基本情報

生 年	昭和36(1961)年
最終学歴	同志社大学大学院文学研究科博士前期課程修了
取得学位	文学修士
学位取得年月	平成元（1989）年3月
出身地	岩手県
専門分野	アメリカ文学
担当講義	英語、教養演習
所属学会	日本アメリカ文学会、日本マーク・トウェイン協会、日本英文学会、日本比較文化学会、Mark Twain Circle of America
長期研究テーマ	マーク・トウェインの作品を初期・中期・後期に分けて研究し、その全体像を明らかにする。
短期研究テーマ	マーク・トウェインの後期の作品を当時の心霊・心理学研究の隆盛、帝国主義国家台頭との関連において研究する。
1年以内に発表予定の研究業績	

研究業績 (2017年9月末日現在)

【論文】

1	「A Connecticut Yankee in King Arthur's Court—家庭的幸福の追求—」（単）『比較文化研究』No.17（日本比較文化学会）1991年3月，26-38頁。
2	「Pudd'nhead Wilson におけるDavid Wilsonの社会的成功の意味—Dawson's Landingの虚像と実像—」（単）『主流』第53号（同志社大学英文学会）1992年2月，71-84頁。
3	「The Prince and the Pauper—「狂気」の社会から「正気」の社会へ—」（単）『比較文化研究』No.22（日本比較文化学会）1993年3月，32-41頁。
4	「Father and Son in One Christmas: Compared with Other Voices, Other Rooms」（単）『富士大学紀要』第28巻第1号（富士大学学術研究会）1996年1月，65-74頁。
5	「No.44, The Mysterious Strangerにおける最終章の唯我論的人生観・世界観の意味」（単）『富士大学紀要』第29巻第3号（富士大学学術研究会）1997年3月，137-144頁。
6	「No.44, The Mysterious Strangerの不確定性—矛盾する人間観・世界観—」（単）『主流』第61号（同志社大学英文学会）2000年3月，85-98頁。

7	「Mark Twainの晩年の思想」 (単) 『比較文化研究』 No.51 (日本比較文化学会) 2001年3月, 73-82頁.
8	「大学における英語教育の目標と内容に関する一考察」 (共) 『富士大学紀要』 第35巻第1号 (富士大学学術研究会) 2002年8月, 89-95頁.
9	「ヤンキー歴史学者が示唆するアメリカ史像—歴史的テキストとしての『アーサー王宮廷のコネティカット・ヤンキー』—」 (単) 『言語と人間』 第7号 (言語人文学会) 2004年3月, 67-82頁.
10	「まぬけのウィルソンの成功の秘密—ハンク・モーガンと二人のデーヴィッド・ウィルソン—」 (単) 『マーク・トウェイン—研究と批評—』 第3号 (日本マーク・トウェイン協会) 2004年4月, 63-71頁.
11	「Huck の決意とJimの自由—Adventures of Huckleberry Finnを巡る論争に関する一考察」 (単) 『富士大学紀要』 第42巻第2号 (富士大学学術研究会) 2010年3月, 37-46頁.
12	「What the Million-Pound Bank-Note Gets: An Interpretation of Henry Adams's Final Statement in "The £1,000,000 Bank-Note"」 (単) 『東北アメリカ文学研究』 第33号 (日本アメリカ文学会東北支部) 2010年3月, 21-31頁.
13	「どうして語り手はInjun Joeの悲惨な最期を語るのか—The Adventures of Tom Sawyerの語り手の二つの意図」 (単) 『富士大学紀要』 第43巻第2号 (富士大学学術研究会) 2011年3月, 51-59頁.
14	「『トム・ソーヤーの冒険』のインジャン・ジョーとは何者なのか—インディアンの表象とセント・ピーターズバーグの他者」 (単) 『関西マーク・トウェイン研究』 第2号, 2011年3月, 68-80頁.
15	「"The £1,000,000 Bank-Note" の中のもう一つの物語—揺らぐSelf-Made Manの言説」 (単) 『富士大学紀要』 第48巻第1号 (富士大学学術研究会) 2015年8月, 11-18頁.
16	「冷酷な資本家誕生の物語としての"The £1,000,000 Bank-Note"」 (単) 『関西マーク・トウェイン研究』 第3号, 2015年12月, 41-52頁.

【翻訳】

1	『アメリカ文学史』 (共訳編注) 大阪教育図書, 1996年10月, 1-36頁, 79-90頁, 147-182頁.
---	---

【その他の執筆】

1	「The Meaning of David Wilson's Social Success in Pudd'nhead Wilson: The Illusion and Reality of Dawson's Landing (Summary)」 (単) Mark Twain Circular 6.4 (Mark Twain Circle of America) 1992年12月, 9-10頁.
2	「図書館の思い出—詩人エドガー・アラン・ポーとの出会い—」 (単) 『学術研究会会報』 第46号 (富士大学学術研究会) 1995年1月, 27-28頁.
3	「因子分析法・S-P表分析法を利用した授業分析—大学英語教育の実践報告—」 (共) 『富士大学紀要』 第35巻第2号 (富士大学学術研究会) 2003年3月, 163-169頁.
4	「マーク・トウェイン研究の宝庫」 (単) 『マーク・トウェイン—研究と批評—』 第2号 (日本マーク・トウェイン協会) 2003年4月, 121頁.

5	「私が見たアメリカ南部の社会—在外研究を終えて（上）」（単）『星辰』第76号（富士大学学術研究会）2010年3月，3-7頁.
6	「百万ポンド紙幣が買ったもの—「百万ポンド紙幣」におけるヘンリー・アダムズの最後の言葉の解釈」（単）『マーク・トウェイン—研究と批評—』第9号（日本マーク・トウェイン協会）2010年4月，42頁.
7	「私が見たアメリカ南部の社会—在外研究を終えて（下）」（単）『星辰』第77号（富士大学学術研究会）2010年8月，9-13頁.
8	「書評：亀井俊介監修『マーク・トウェイン文学／文化事典』彩流社，2010年」（単）『東北アメリカ文学研究』第35号（日本アメリカ文学会東北支部）2012年3月，120-122頁.
9	「Is He Dead? を観て思ったこと」（単）『Newsletter』No. 38（日本マーク・トウェイン協会）2015年8月，1頁.

【学会発表】

1	「A Connecticut Yankee in King Arthur's Courtにおける楽園について」（単）日本比較文化学会関西支部月例研究会，1990年2月.
2	「A Connecticut Yankee in King Arthur's Court—家庭的幸福の追求—」（単）日本アメリカ文学会関西支部月例研究会，1991年1月.
3	「Pudd'nhead Wilsonにおけるthe false Tomの社会的死の意味について」（単）日本比較文化学会関西支部月例研究会，1991年3月.
4	「Pudd'nhead WilsonにおけるDavid Wilsonの社会的成功の意味について」（単）関西フォークナー研究会夏季例会，1991年7月.
5	「The Prince and the Pauper—現実の中の狂気と夢の中の真実—」（単）日本比較文化学会関西支部月例研究会，1992年7月.
6	「ヤンキー—歴史学者が示唆する未来のアメリカ史像」（単）日本マーク・トウェイン協会第7回大会，2003年10月.
7	「What the Million-Pound Bank-Note Gets: An Interpretation of Henry Adams's Final Statement in "The £1,000,000 Bank-Note"」（単）Elmira 2009: The Sixth International Conference on the States of Mark Twain Studies (Elmira, New York) 2009年8月.
8	「Injun Joeの死がもつ二つの意味—The Adventures of Tom Sawyerにおける二方向の「語り」」（単）日本マーク・トウェイン協会第13回大会，2009年10月.
9	「資本家ヘンリー・アダムズ誕生の物語としての「百万ポンド紙幣」」（単）日本アメリカ文学会東北支部月例研究会，2009年11月.

【内外における公開講座等の講師】

1	「フロンティアのゆくえ—アメリカ主流文化の底流を探る」花巻市民セミナー，2002年10月.
2	「アメリカ社会の現実—在外研究を終えて」花巻市民セミナー，2009年10月.
3	「私が見たアメリカの社会—日本の社会との違い」北上市民セミナー，2009年10月.

【社会的活動】

1	日本アメリカ文学会東北支部編集委員（2010年4月～2018年3月） 同編集委員長（2016年4月～2018年3月）
2	日本英文学会東北支部編集委員（2012年4月～2015年3月）
3	日本マーク・トウェイン協会評議員（2012年4月～2018年3月）